

現職教育の取組

①外国語活動の基本理念の理解

新学習指導要領に示されている基本理念についての共通理解を図った。プレゼンテーションを活用し、外国語活動の目標・内容、留意事項等を分かりやすく表示したり、クイズを取り入れた実践的な内容を盛り込んだりすることで、楽しみながら理解することができた。

基本理念の理解



②ワークショップ

○クラスルームイングリッシュ

クラスルームイングリッシュの活用のため、よく使用する言葉を提示し、実際に模擬授業等で活用した。

○チャンツ

チャンツの効果的な活用のために、手拍子、カスタネット、鈴、タンバリン、インタラクティブ・ホワイトボードを用いたテンポの良いチャンツ体験をすることで、実際の指導に生かした。

○ゲーム

様々なゲームを取り入れると、児童が楽しみながら外国語に慣れ親しむことができる。そのために有効なゲームを模擬授業として体験した。具体的には、キーワードゲーム、ビンゴゲーム、ボンゴゲーム、メモリーゲーム、インタビューゲームなどである。この体験により、教師自身が楽しいと実感することができ、このことが外国語活動推進に役立った。

使用した教材



○模擬授業

中核教員研修を受け、講座で学んだことを教職員で共通理解を図った。実際に役立つ活動を取り上げ、模擬授業を行った。ゲーム形式で自然と英語を聞いたり話したりすることで、英語に苦手意識を持っている者も楽しみながら授業に参加することができた。英語へのハードルが低くなったように感じた。



模擬授業の様子

使用した教材



③指導案及び教材の作成

外国語部会による研究授業を実施するにあたり、共同で指導案を検討・作成した。研究部員一人一人が意見を出し合うことで、より良い活動案を考えることができた。また、その指導案に沿って教材を作成し、形・色などを工夫するなど協力することができた。

④研究授業

③で作成した指導案、教材を活用し、外国語活動部会による研究授業を実施した。共同でつくる授業では、教師一人一人が積極的に指導者として活躍することができた。英語も自然に使用することができ、生きた研修となった。研究授業が終わったとき、教師も児童も「楽しい」という思いを持つことができた。「外国語活動は楽しい」と実感できたことが第一の成果である。この成果は、単にゲームが楽しいというのではなく、ALTも含めて教師と児童の間にはコミュニケーションが存在したからこそ得られたと考えている。

買い物



フルーツバスケット



私のパフェ



⑤教職員の感想

- ・夏期休業中に教頭が講師を担当することでとても楽しく実のある研修を行うことができた。そのことが、3学期の校内授業研究の場に生かされたように思われる。
- ・特に3学期5・6年の授業案づくりは、オリジナルに近いものになった。
- ・授業で使う電子教材や英語ノートの扱い方などの研修ができた。
- ・指導方法や教材などの工夫を行う検討会を持ち、互いに意見交流ができた。
- ・校内の研修だけでなく研究校の視察など、全教員での取組となった。
- ・小学校外国語活動の意義、英語ノートの活用、クラスルームイングリッシュの実際など、ワークショップも交えながら研修できたので、よく分かった。
- ・高学年の教材研究・授業研究に参加することができ、今後の参考になった。
- ・教師自身が楽しみながら、大げさにアプローチする必要性を感じた。
- ・クラスルームイングリッシュ等の研修なども更に充実させたい。